

BPA は混乱を招くとの研究結果



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2018年8月15日 (水) [SAFETY](#)

この見出しは完全に正しいわけではありません。私を知る限り、BPA が混乱を招くとの研究報告はありません。しかし、BPA が混乱を招くテーマであることは間違いありません。もしあなた方がここ数年 BPA について読んだことで混乱したとすれば、大目に見ましょう。

一方で、欧州食品安全機関(EFSA)は、「*BPA は、現在の曝露レベルでは(胎児、乳幼児や若者を含む)あらゆる年齢層の消費者に対して健康リスクをもたらしません。*」と[結論を下しました](#)。この結論は、EFSA が任命した専門家パネルによる包括的な科学的評価の結果です。

もっと簡単に言えば、BPA は安全であり、これは米国食品医薬品局(FDA)が独自の包括的評価に基づいてウェブサイト上で述べている「[BPA は安全ですか? – はい。](#)」の FAQ と全く同じです。[CLARITY 研究](#)に関して FDA は最近の[声明](#)でこう述べています。「*我々の初期レビューでは、現在認可されている BPA の使用法は、消費者にとって安全であり続けるとの我々の決定を支持するものです。*」 CLARITY 研究は、BPA の安全性に関して残された不確実性を解決するために FDA の研究室で FDA の上級科学者が行った研究です。

今のところは順調ですね。BPA に関して EFSA と FDA が述べている内容については、あまり混乱はありません。そしてそれは FDA や EFSA だけではありません。[世界中の政府機関](#)もそれぞれ BPA の独自の評価に基づいて同様のことを述べています。

しかしここからが混乱を招くところです。他方、欧州化学品庁(ECHA)は、BPA を「高懸念物質」([SVHC](#))であると結論付けました。どうすれば BPA が安全であると同時に SVHC であり得るでしょうか? そのうちの片方は間違っているのでしょうか?

食い違いの理由は、ECHA が FDA や EFSA とはまったく異なる評価をしているからです。この食い違いは非常に大きく、ECHA が一部始終を伝えていないとあなたは言うかもしれません。さらに悪いことに、ECHA は消費者にとって最も重要なストーリーの部分を伝えていません。

EFSA と FDA は双方とも、実際にその化学物質に曝露する可能性のある方法で化学物質の安全性またはリスク評価を行っています。曝露経路或いは化学物質と誰が接触するかと関係なく化学物質の本質的特性である有害性から評価を開始します。それに重要なことには、安全性やリスク評価には、曝露の考慮、特に消費者が実際に経験する化学物質レベルも含まれます。

曝露を考慮する事は非常に重要です。この理由を、例を挙げて説明しましょう。2錠のアスピリンを服用すれば頭痛をなくすことができるでしょう。しかし、ボトル一本のアスピリンを服用すれば、ほぼ確実に害を及ぼし、あなたの生命を奪う事すらあります。アスピリンは、消費者が通常経験するレベルでは安全(すなわち、非常に低いリスク)です。あまりにも多くを摂取すると安全ではないかもしれませんが、典型的な曝露レベルでは実際には心配には及びません。

EFSA や FDA とは対照的に、BPA に関する ECHA の結論は、典型的な消費者曝露を考慮することなく、有害性の評価のみに基づいています。それ自体でその結論は、学術的興味を幾分惹くものかもしれませんが、[ヒトへの BPA 曝露は極度に低い](#)と言う既成事実を完全に見落としているので、結論は不完全であり、消費者にとってはさほど有益なものではありません。

私たちが最も気にしているのは、典型的なヒト曝露の条件下での物質の安全性です。言い換えれば、それは安全か?、また使用の際にリスクがあるのかどうか?です。BPA に関するその質問への答えは、[FDA が明確に述べた](#)ように、「はい — BPA は安全です。」です。その意味では安全性を支持する非常にしっかりした科学的根拠がある事を意味する「**極低懸念物質**」(SVLC: Substance of Very Low Concern)に BPA を指定する方が適切かもしれません。